

数量詞に後続する可算名詞の解釈
 — ブラジル・ポルトガル語の数量表現からの考察 —
 吉野 朋子 (神田外語大学)

1. はじめに

ポルトガル語の名詞には英語と同様に可算名詞と不可算名詞の区別がある。(1)に示すように、多くの可算名詞の複数形には複数を表す-sが後続する。

(1) 単数形：

livro 'book', carro 'car', bola 'ball'

複数形：

livros 'books', carros 'cars', bolas 'balls'

「たくさん」「多くの」を意味する数量詞 *muito* は不定形容詞で、後続する名詞の性数によって形が変わる。「たくさんの本」の意味では、 *muitos livros* となり、名詞とともに *muito* も複数形となり複数を表す-sが後続する。また、主に口語表現では不定形容詞も可算名詞も単数形の *muito livro* という表現も使用する。Castilho (2010: 68) は、 *muito livro* のように単数形で使用する場合は総称的に名詞の内容物を表し、 *muitos livros* のように複数形の場合は、全体を構成する要素を個別化し非連続的に表すと述べ、意味効果が異なるとしている。

以下の優等比較を表す比較構文では *muito* の比較級 *mais* が可算名詞に前置している。

(2) João tem **mais livro-s** que a Maria.

João has more book-PL than the Maria
 'João has more books than Maria.'
 (cardinal^{ok}, volume[#])

(3) João tem **mais livro** que a Maria.

João has more book-SG than the Maria
 'João has more book than Maria.'¹
 (cardinal^{ok}, volume^{ok})

(Rothstein 2017: 128)

mais は性数変化のない不定形容詞である。(2)では「本」の複数形 *livros 'books'* が現れ、(3)

では単数形 *livro 'book'* が現れている。Rothstein (2017:128)によると、(2)は「ジョアンはマリアよりも多くの本を持っている」という本の冊数を比較する意味のみを表す。一方、(3)は冊数という「数」(cardinality/number)に関する比較のみならず、本の重さや大きさといった「量」(volume)の比較も表す。(3)では、ジョアンが持っている本の冊数はマリアよりも少ないが、マリアの持っている本よりも重くて大きい状況も意味するということである。

このように、数量詞 *muito* や *mais* に、 *livro 'book'* のような裸の単数可算名詞 (Bare Singular Count Noun: BSCN) が後続する場合と、 *livros 'books'* のよう裸の複数可算名詞 (Bare Plural Count Noun: BPCN) を用いる場合とでは、意味解釈が異なるとする研究もある。

本稿では、数量詞に後続する BSCN と BPCN の解釈を考察する。先行研究の実験結果によると、数量詞に BPCN が後続する場合は「数」の解釈が優勢となり、BSCN が後続する場合は「量」の解釈が優勢となる。これに関して、BSCN は意味のレベルで「一つの物質」として再概念化され、文法のレベルで不可算名詞に再範疇化されるとする捉え方もある。しかし、こうした再概念化と再範疇化によって十分に説明ができない事実があることを示す。また、数量詞の種類によって文の容認性が異なることを論じる。

2. 先行研究の実験結果

先行研究では主に数量詞 *mais* に後続する BSCN と BPCN の実験を行っている。

Beviláqua and Pires de Oliveira (2014)は、BSCN と BPCN の解釈に関する実験を64名の大学生を対象に行なった。以下は、BSCN の実験例であり、参加者は絵を見て回答する。

¹ 本稿で扱うポルトガル語の例に対して、厳密に対応する英訳は困難であり研究によって英訳の仕方が

異なる。本稿では各引用元の英訳をそのまま載せる。

- (4) Context: “Joana e Maria qurem encher o cesto”
 ‘Joana and Maria want to fill the basket’;
 Question:
 Quem tem **mais bola** para encher o cesto?
 who has more ball to fill the basket
 ‘Who has more ball to fill the basket?’
 (Beviláqua and Pires de Oliveira 2014: 263)

絵では、ジョアナは大きなボールを2つ、マリアは小さなボールを4つ持っている。回答者は、(4)の質問に対して、「ジョアナ」「マリア」「両方」「どちらでもない」の中から回答を選ぶ。実験結果では、(4)の bola ‘ball’ のような BSCN が現れている場合は、60%が「量」の解釈、20%が「数」の解釈、残りの20%が両方の解釈で回答した。

この実験結果に関して、Lima and Gomes (2016)は、BSCNの「量」の解釈は「量」の解釈が優勢となる文脈がある場合にのみ可能と論じている。Beviláqua and Pires de Oliveira (2014)の実験では、「バスケットを満たす目的」という文脈があり、こうした文脈がBSCNの「量」の解釈に影響するとしている。「数」「量」どちらの解釈にも影響しない中立的な文脈では、BSCNは「数」で解釈する傾向が高いと論じている。一例を挙げると、(5)の優等比較を表す比較構文では、carro ‘car’ というBSCNが現れている。

- (5) Pedro tem **mais carro** que Júlia.
 Pedro has more car than Júlia’
 ‘Pedro has more car(s) than Júlia.’
 (Lima and Gomes 2016: 203)

22人を対象に絵を用いて実験を行った結果、99%が(5)を「ペドロはジュリアよりも多くの車を持っている」という車の台数、つまり「数」の比較で解釈している。

前章で述べたように、(3)の比較構文では、(5)と同様にBSCN (livro ‘book’) が現れ、Rothstein (2017)は「数」「量」どちらの解釈も可能としている。しかし、Lima and Gomes (2016)の実験結果からは、中立的な文脈では「数」の解釈が圧倒的に優勢ということになる。

Beviláqua and Pires de Oliveira (2017)は、量の

解釈が優勢になる(4)のような文脈 (biased contexts : BC) の場合と、「量」「数」どちらの解釈にも影響しない中立的な文脈(neutral contexts: NC)の場合とに分けて実験を行った。40人の大学生を対象に行った実験結果をまとめると以下のようなになる。

表1 : BSCN と BPCN の解釈 (文脈別)

	BSCN	BPCN
BC	量 : 74% 数 : 26%	量 : 28% 数 : 72%
NC	量 : 66% 数 : 34%	量 : 6% 数 : 94%

(Beviláqua and Pires de Oliveira (2017: 367)をもとに筆者作成)

この実験結果によると、BC・NC どちらの文脈においても、BSCN は「量」の解釈が優勢となり、BPCN は「数」の解釈が優勢となる。Lima and Gomes (2016)の実験では、BSCN は中立的な文脈では「数」の解釈が圧倒的に優勢という結果が出ているが、これとは異なる結果になっている。BSCN は文脈にかかわらず「量」の解釈が優勢ということである。また、前章で述べたように、Rothstein (2017)は、BPCN は「数」の解釈のみを表すとしているが、実験結果を見ると「量」の解釈が優勢となる文脈の場合は「量」の解釈が28%と増えている。

3. 考察

多くの研究で言及しているように、可算名詞と不可算名詞の境界は絶対的なものではなく、話者の事物の捉え方や認識の仕方が深く関わっている。話者の認識の仕方によっては、可算名詞が不可算名詞に、不可算名詞が可算名詞に転化することは少なくない。

数量詞に後続するBSCNはヨーロッパのポル

トガル語でも使用される²。Raposo et al. (2013: 955:ff13)は、ヨーロッパのポルトガル語の(6)に関して、話者が数量 (quantity) を強調したい場合に、可算名詞は単数形で *muito* に数量化されるとしている。

(6) Compraste **MUITO** livro na tabacaria
bought much/many book in the shop
'You bought muito (much/many) books'³
(Raposo et al. 2013: 955:ff13)

同書によると、大文字の **MUITO** に強いアクセントがあり、独特のプロソディーがある。(7)のように数量名詞句が文頭にあると容認性が高くなり、非連続的な個体 (entity) は一つの物質 (substance) として再概念化 (reconceptualized) されるとしている。

(7) **MUITO** livro compraste na tabacaria
much/many book bought in the shop
(ibid.)

Raposo et al. (2013: 963)は、*muito* や *demasiado* 'too many' 'too much' のような数量詞によって特定されると可算名詞は不可算名詞に再範疇化 (recategorized) されることがあるとしている。可算名詞が不可算名詞に転化されるとする見方である。

ブラジル・ポルトガル語の数量詞に後続する **BSCN** は、意味のレベルで「非連続的な個体の総体」としてではなく「一つの物質」として再概念化されているのだろうか。文法形式のレベルで可算名詞が不可算名詞に再範疇化されているのだろうか。**BSCN** が数量詞に後続する形式を解釈する際にも、解釈側で同様の再概念化と再範疇化が起こっているのだろうか。

前章で見た Beviláqua and Pires de Oliveira (2017)の実験結果によると、ブラジル・ポルトガル語の **BSCN** を解釈する際は、「量」の解釈が優勢である。この場合は、解釈側でも再概念化と

再範疇化がおこっているとみることができる。意味のレベルで「非連続的な個体の総体」が「一つの物質」として再概念化され、不可算名詞に再範疇化されているとみることができる。

しかし、**BSCN** を用いながらも「数」の解釈も可能である。Lima and Gomes(2016)の実験結果では圧倒的に数の解釈が優勢である。この場合は、形式面で不可算名詞に再範疇化されていても、意味解釈のレベルでは「一つの物質」として再概念化されていないことになる。また、表1で見たように、**BPCN** の場合は、「量」の解釈が優勢となる文脈 (BC) では「量」の解釈が増える。この場合は、形式面では再範疇化されていないにもかかわらず、意味解釈のレベルで再概念化されていることになる。このように、ブラジル・ポルトガル語では、再概念化と再範疇化が同時に起きていないと言えるケースがあり、再概念化と再範疇化による捉え方だけでは十分に説明できない事実がある。

1章で言及したように、Castilho (2010: 68)は、*muito livro* のように単数形で使用する場合は総称的に名詞の内容物を表すとしている。Pires de Oliveira and Rothstein (2011)の分析によると、ブラジル・ポルトガル語の **BSCN** は種類を表す質量名詞 (kind-denoting mass nouns) ということになる。同研究は、ブラジル・ポルトガル語のすべての名詞が質量名詞として現れることができ、その中に可算形ももつ名詞もあると捉えている。こうしたアプローチから数量詞に後続する **BSCN** の解釈可能性を考察する必要もあろう。

また、数量詞の種類によって **BSCN** の容認性に違いがある。以下の劣等比較の比較構文では、*menos* 'less'に **BSCN** が後続しているが、文の容認性が若干下がる。

(8) Quem tem **menos bola** para encher o cesto?
who has less ball to fill the basket
'Who has less ball to fill the basket?'

² Pires de Oliveira and Rothstein (2011: 2171, ff15)によると、数量詞と **BSCN** の使用において、ブラジル・ポルトガル語と違いもある。また、Müller and Oliveira (2004)が論じているように、裸の名詞表現 (bare

nominals) の容認性に関して、ブラジル・ポルトガル語と違いもある。

³ (6)(7)の英訳は筆者によるもので、Lima and Gomes (2016: 204)の英訳の仕方を参考にした。

- (9) Pedro tem **menos carro** que Júlia.
Pedro has less car than Júlia
'Pedro has less car(s) than Júlia.'⁴

筆者が5人のブラジル人インフォーマントに調査したところ、2名が(8)(9)ともに文として不自然で使用しないと回答した。残りの3名は口語表現としてならば使用すると回答した。

興味深いことに、日本語においても数量詞の種類が容認性に影響する場合がある。日本語では、数量詞の種類によって、名詞表現が「数」の解釈にも「量」の解釈にもなりうる場合がある。(10)のように基数が名詞に前置する場合は「数」を表すが、(11)のように「大量の」が前置する場合は漠然と「量」を表す解釈が可能である。

- (10) 2冊の本、3台の車、3人の奴隷、4人の移民
(11) 大量の本、大量の車、大量の奴隷、大量の移民

しかし、「量」の解釈は「多い」場合にのみ可能であり、(12)のように「少量の」を用いた表現は使用しない。

- (12) *少量の本、*少量の車、*少量の移民、*少量の奴隷

「多い状態」と「少ない状態」とでは認知の仕方が異なり、数量詞の容認性も変わってくることが示唆される。

4. 結論

本稿では、数量詞にBSCNとBPCNが後続する場合の解釈可能性について考察した。先行研究の実験結果を検討し、再概念化と再範疇化による捉え方のみでは十分に説明ができない事実があることを論じた。また、数量詞の種類によって文の容認性が異なることを示した。

ブラジル・ポルトガル語は変種によって

BSCNとBPCNの使用頻度に違いがある。インフォーマルな変種ではBSCNの使用が多くBPCNの使用が少ない⁵。本稿で扱ったブラジル・ポルトガル語の数量詞にBSCNが後続する例について、筆者がブラジル人インフォーマントに確認したところ、口語表現であり書き言葉では使用しないと回答があった。ブラジル・ポルトガル語は社会階層によってポルトガル語の特徴が異なることが従来から指摘されている。教育機会の乏しい社会階層の下位に属する人々が用いるポルトガル語では、複数形の表し方も異なる。こうした社会方言的な側面もどのように関係するのか、詳細は稿を改めて検討したい。また、数量詞に後続する名詞の種類も解釈に関係することが考えられ、通時的な側面も含めて今後の検討課題としたい。

参考文献

- Beviláqua, K., and Pires de Oliveira, R. (2014) Brazilian bare phrases and referentiality: evidences from an experiment. *Revista Letras*, 90(2).
- Beviláqua, K., and Pires de Oliveira, R. (2017) Brazilian bare nouns in comparatives: experimental evidence for non-contextual dependency. *Revista Letras*, 96.
- Castilho, A. T. de. 2010. *Nova gramática do português brasileiro*. São Paulo: Contexto.
- Lima, S. O., and Gomes, A. P. Q. (2016) The interpretation of Brazilian Portuguese bare singulars in neutral contexts. *Revista Letras*, 93.
- Müller, A., and Oliveira, F. (2004). Bare nominals and number in Brazilian and European Portuguese. *Journal of Portuguese Linguistics*, 3 (1).
- Pires de Oliveira, R., and Rothstein, S. (2011) Bare singular noun phrases are mass in Brazilian Portuguese. *Lingua*, 121(15), 2153-2175.
- Pires de Oliveira, R., and De Swart, H. (2015) Brazilian Portuguese Noun Phrases: An Optimality Theoretic Perspective. *Journal of Portuguese Linguistics*, 14(1).
- Raposo, E. P. et al. (2013) *Gramática do Português*. vol. I. Lisboa: Fundação Calouste Gulbenkian.
- Rothstein, S. (2017) *Semantics for counting and measuring*. Cambridge University Press.
- Wall, A. (2017) *Bare Nominals in Brazilian Portuguese*. John Benjamins.

⁴ (8)(9)の英訳は筆者によるもので、それぞれ Beviláqua and Pires de Oliveira(2014: 263)、Lima and

Gomes (2016: 203)の英訳の仕方を参考にした。

⁵ Pires de Oliveira and Swart (2015), Wall (2017)